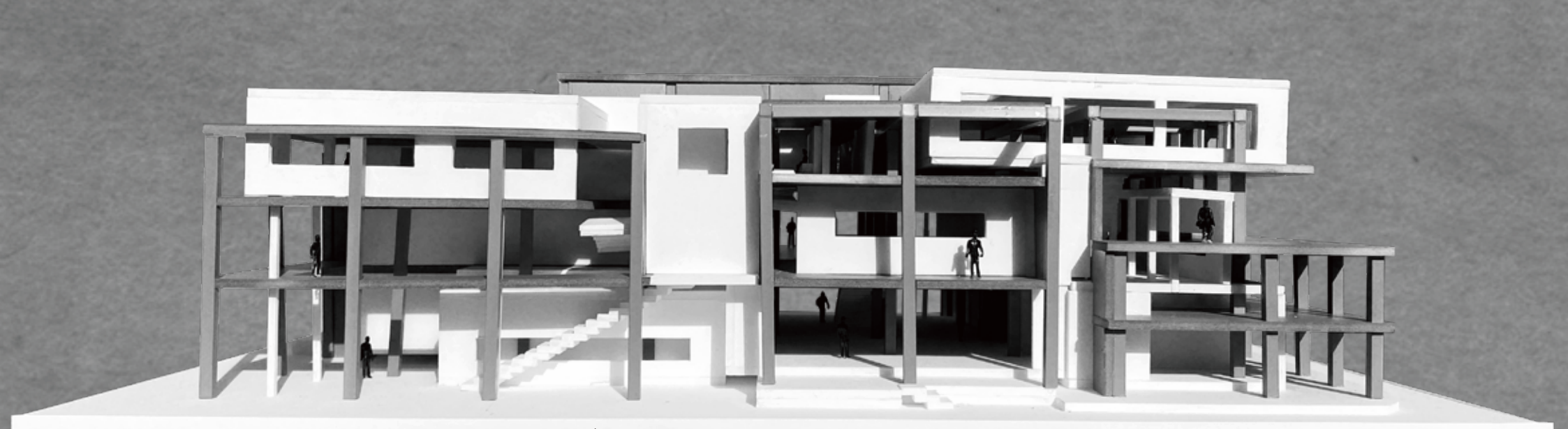


計画的偶発空間

東京理科大学理工学部建築学科　木村哲

01. 街中に見られる偶発空間　- 都市で見られる基本行動からの逸脱した行為の収集 -

都市において「歩く」という行為は、道で行われる基本行動として定義する。
しかし、都市を歩けば様々な場所に人は留まり自ら居場所を獲得している。
これら「歩く」行為ではない人の活動を基本行動からの逸脱した行為と捉え、都市に見られる興味深い行為として収集した。

これらの行為は、人が都市を構成するなにかしらの要素を読み替えて行う行為であることが発見され、その要素を赤で示した。
この時、人は能動的に自らの居場所を都市に見出し、周囲の環境を取り込み各々に適した空間を形成している。
機能的に分けられ合理性を追求し形成されてきた都市に対し、人が能動的に関わろうとしていく行為であり、
私はこの人の行為と要素の関係性に注目した。

02. 建築内部にて起こりにくい偶発空間

都市で見られた行為は、建築においてあまり見られない。
建築の内部空間は、機能やプログラムに支配され、自由な空間の読み替えは行われない。
しかし、都市での構成要素の読み替えによって行われる行為であるならば、建築の構成要素でも行われるのではないかと考えた。
形式化した建築の内部空間を、構成要素から読み替えを行い遊びを持つ空間が生まれることを期待し、新たな設計手法を考えたい。

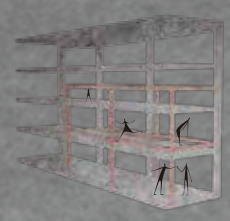
03. 既存と要素の融合　- 設計しすぎない設計手法の仮説 -

空間の利用法を想定しすぎた設計は従来のプログラムを定める設計手法と異ならないものになってしまうため、
人が空間を能動的に選び、自由な行為を偶発させるためには空間を設計しすぎないことが必要であると考える。

仮説する設計手法
1. 空間の偶発性を生むため、既存する空間を敷地とする。
2. 建築を構成する要素「床・壁・柱...etc」を用意する。
3. 要素を既存空間のスケールなどを考えず融合させる。

既存空間と構成要素

既存と要素の融合

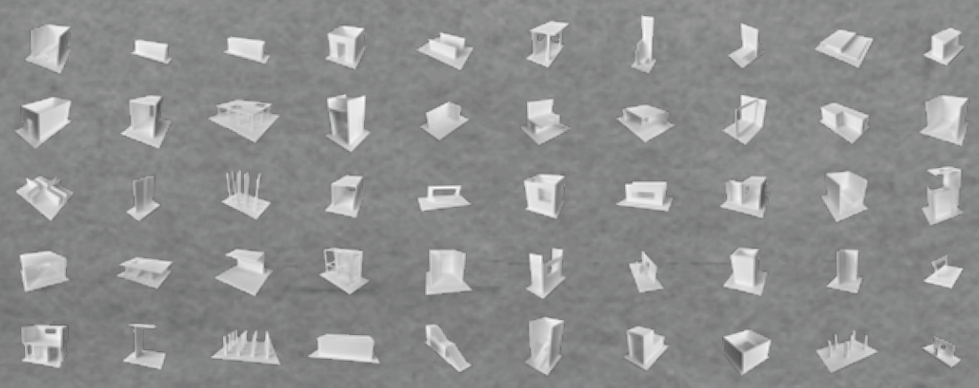


複雑な空間と自由な行為

これにより、わずかな段差、視線の遮りや抜けや曖昧な幅を持つ空間などを偶発的に生み、
人々が能動的に空間を捉え、より豊かな建築空間をもたらすのではないだろうか...

04. 手法

1. 既存空間と融合する要素を計画するために、要素のみ構成される単純な空間を収集・模型化する。

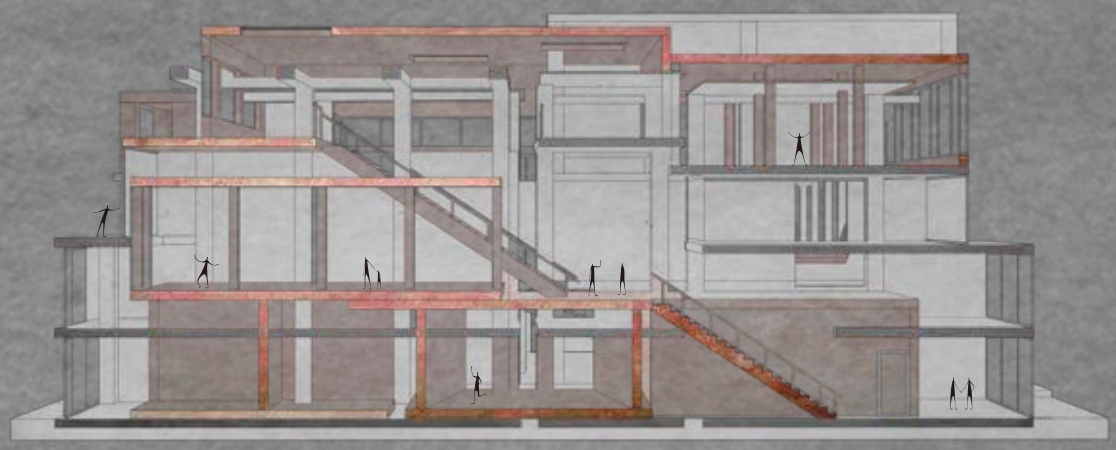


2. 空間を敷地内で計画的に集積する

3. 集積した空間の構成要素の集積を、既存空間に融合する

計画的に集積された空間

既存と要素が融合された

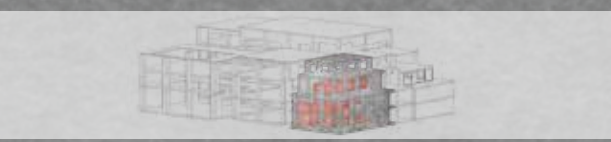


05. 分析 - 偶発空間による行為の発見

空間構成要素　既存：二つのビルの外壁　新規：階段・梁・柱
形成された空間　階段に通る柱による壁・梁と柱による領域性
行われた行為　・通行空間である階段に対して柱が壁のような役割を持つことで、歩行が遮られるが、滞在空間が生まれる。階段の段差によって座る行為も誘発する。
・領域が頭上に見られることで、そこまで壁際のはじの領域が拡張される。

空間構成要素　既存：スラブ　新規：階段
形成された空間　スラブの高さの差による段差
行われた行為　・階段の途中に座って滞在する空間
・行き止まり空間によって横たわりゆっくり時を過ごす

空間構成要素　既存：スラブ　新規：階段・壁
形成された空間　数段分の段差・ビルを横断し奥を望む空間
行われた行為　・スラブに生じた段差によって小さな角が生まれ、人が溜まる。
・奥行きがありながらも、二つのビルから入る光によって生まれる明暗が時間や天候によって行為の違いを生む。



空間構成要素　既存：スラブ・壁・ガラス　新規：スラブ・壁・柱
形成された空間　スラブの高さの差による段差・開口にスラブがあり
スキップフロアのようになる。
行われた行為　・生じた段差によって小さな角が生まれ、人が溜まる。
・上下に視線が抜けて常に視界変わる多様な表情を楽しむ。

空間構成要素　既存：外壁　新規：壁
形成された空間　周回する壁に挟まれた隙間空間・外側に内部を持つホール空間
行われた行為　・挟まれることで生まれた小さい空間での滞在
・二重の壁ぬよる空間によって、より内的な方向を向いた会話

空間構成要素　既存：外壁　新規：壁
形成された空間　大空間の中に小さな空間・外壁と内壁による中間領域
行われた行為　・空間が分けられ、壁が生まれたことで寄りかかったり多様な方向を向く。
・中間領域の空間によって奥を望みながら滞在する。